

## 編集後記

2012年度、本センターは「東亜同文書院を軸とした近代日中関係史の新たな構築」というプロジェクトが文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された。これは2010年度まで続いた文部科学省によるオープン・リサーチ・センター事業を引き継ぐものであり、3年目に中間審査が入るが、それを通過すれば5年間継続するものである。本年度は、本センターが所有する貴重な資料を永続的に良い状態で保存するために耐火性能の収蔵史資料室(資料庫)の増設と、大学記念館の改修に力を入れたが、来年度からはプロジェクトのもと5つの研究会が本格的に始動する予定である。

本年は本センターと台湾の中央研究院台湾史研究所と共催で昨年8月に「近代台湾の経済社会変遷—日本とのかかわりをめぐって—」という国際シンポジウムを行った。これは2日間にわたり、報告者だけでも日・台・中の20人におよび、それぞれにコメンテーターや司会がついた大型のものであった。多大の尽力をしていただいた日台の関係者に感謝申し上げる。その中の1セクション「東亜同文会・東京同文書院と近代日本・台湾」での口頭報告を本書におさめた。その他の報告もふくめたフルペーパーは、今後、台湾および日本で出版する予定で現在準備を進めている。

今年2月、沖縄で本学同窓会のご支援のもとで、本センターの「東亜同文書院大学から愛知大学へ」という展示と講演会を行った。講演会での佐藤学長のごあいさつのほかに、芥川賞作家で東亜同文書院大学44期生の大城立裕氏の講演、ならびに原稿を掲載した。大城氏の講演は、20年ぶりだそうであるが、30分以上のどが続きと固辞されたのを、藤田佳久前センター長のたびたびの要請により、ようやく実現したものである。さらに本学卒業生で沖縄税理士会会長である百田勝彦氏の講演と、本センター関係者3人の講演も掲載した。大城立裕氏および百田勝彦氏、本学同窓会沖縄支部、東松照明氏の写真パネルを貸して頂いた越知専氏、また大城氏にたびたびの講演の要請を行われた藤田佳久前センター長に厚く御礼申し上げたい。

昨年6月、愛知大学公館の見学会と本センターでの特別展を行ったが、多くの方が参加し大変好評であった。その報告について掲載した。

また昨年11月に中国での東亜同文書院の大旅行研究の第一人者、武漢大学の馮天瑜先生を迎えての研究会の報告も掲載した。

論文では、藤田佳久前センター長をはじめ、2人の本センター関係者および一人の元関係者による「20世紀初期の東亜同文会の東アジアをめぐるネットワーク」、「科学的興業研究所設立案」について「東亜同文書院使用以前の御幡雅文『華語跬歩』」「明治時代における対清昆布輸出の状況」を掲載した。

第19回東亜同文書院大学記念基金会の奨励賞は、東亜同文会、東亜同文書院関係の資料収集とそれの本センターの寄付による本センターの充実で有森茂生氏(昭和52年法経学部卒)と東京同文書院の研究で保坂治朗氏(元中央大学附属高校教諭)が選ばれたが、それぞれの推薦の言葉と受賞挨拶を掲載した。

その他に資料紹介で千賀新三郎氏に寄稿いただくとともに、本センター関係者からの原稿を掲載した。

2013年3月13日

東亜同文書院大学記念センター長 馬場 毅